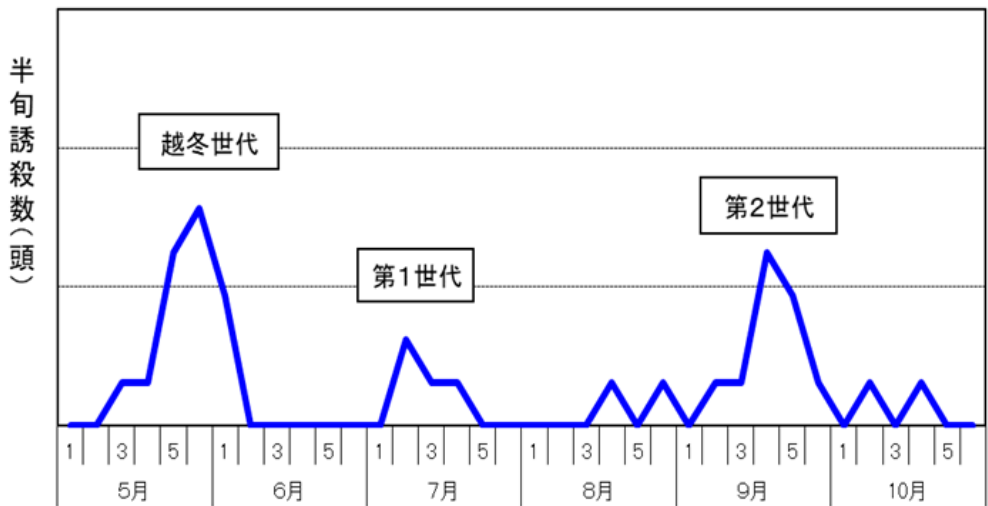


リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病虫害防除部

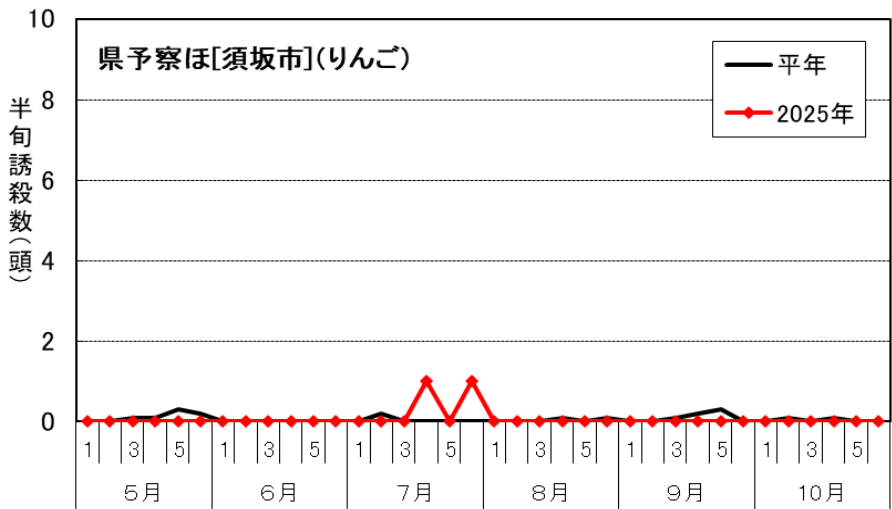
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・平坦部では年3回発生する。
- ・越冬世代成虫は5月下旬～6月上旬に発生する。
- ・第1世代幼虫は6月中旬から発生し、新梢の先端の葉を綴って食害する。成虫は7月中～下旬に発生する。
- ・第2世代幼虫は7月下旬～8月中旬に発生し、果実への加害が始まる。成虫は8月下旬～9月下旬に発生する。
- ・第3世代幼虫は9月上旬頃から発生し、密着した葉と果実の間に入り、果実に鉛筆の先端で突いたような食害を残す。2～3齢になると越冬に入る。
- ・適期防除が重要であるので、フェロモントラップを用いて、それぞれの地域の発生活消長を把握することが重要である。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



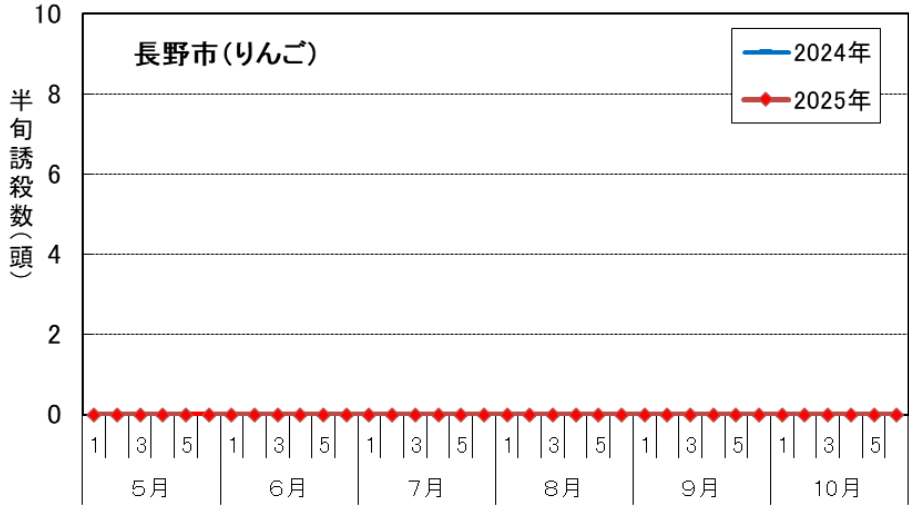
【調査地点】（標高約350m）

- ・須坂市 果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・本種の誘殺はこの5年ほどは少なく、年に1頭誘殺されるかどうかの状況である。本年は7月後半に第1世代成虫が計2頭誘殺されたが、これでも平年に比べ多い数であった。

○長野市（病虫害防除部）



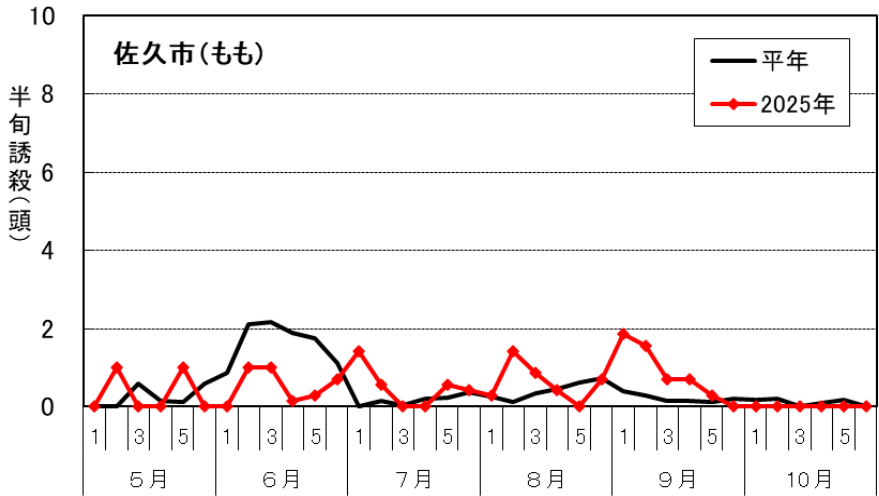
【調査地点】（標高約370m）

- ・長野市（りんごほ場）
- ・2023年からほ場変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・調査ほ場変更以降、過去2年間誘殺が観察されておらず、本年も記録されなかったが、本種自体、北信地域での誘殺は減っている。

○佐久市（佐久農業農村支援センター調査協力）



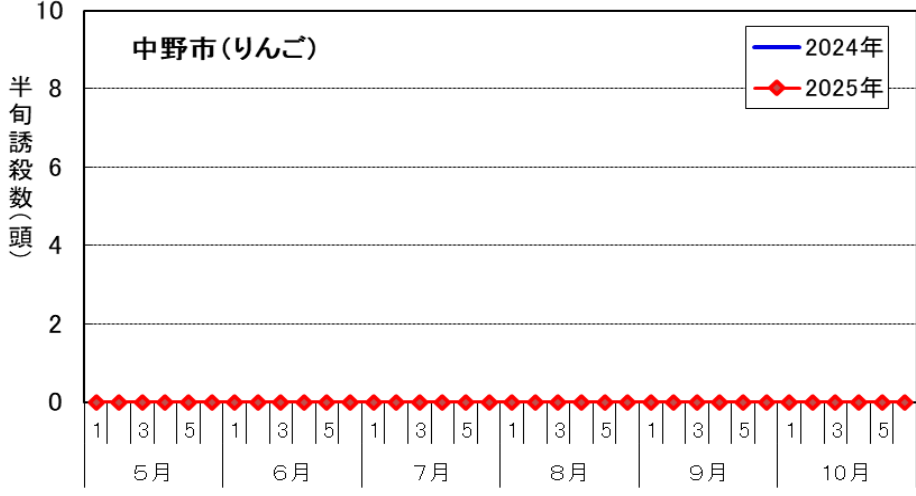
【調査地点】（標高約760m）

- ・佐久市（ももほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値。

【コメント】

- ・東信の本地点は他の観察地点とは異なり、誘殺が記録されることが多い。平年は6月に多くの誘殺が記録され、他の時期は少ないが、本年も観察開始以降、栽培後半までコンスタントに誘殺が観察され、栽培後半の9月に誘殺される数も多かった。

○中野市（病虫害発生予察ほ）



【調査地点】（標高約450m）

- ・中野市（りんごほ場）
- ・2023年にほ場を変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・長野市の観察地点と同様、地点変更以来、過去2年誘殺が観察されていない。本年も記録されなかった。